

“Global Major Brand Kubota”の実現に向けて 〈国内事業〉

パイプ
システム

災害に強いインフラ整備に貢献



呼び径300mmの耐震管を使った
クボタ耐震型ダクタイル鉄管
性能確認試験※



国内で培った耐震管の技術を、
地震の多いアメリカ西海岸でも
展開。
写真は大口径耐震管（呼び径
1800mm他）の施工現場
（米国カリフォルニア州・シリコン
バレー地区）

※ [詳しくはこちら（クボタ耐震型ダクタイル鉄管 性能確認試験）](#)

日本では、震度6弱以上の地震が年平均1回以上のペースで発生しています。そのような中、水道事業者では、人口減にともない、料金収入が減少し、限られた予算と職員で、老朽化した水道管路を更新、耐震化することが求められています。

背景

地震大国「日本」では、
強靱な水道管路の構築が求められている。

■ 1993年以降に発生した震度6以上の地震

2004年新潟県中越地震

1995年阪神淡路大震災

2016年熊本地震

2011年東日本大震災

【震源位置】
● 震度6（6強、6弱含む）
● 震度7
出典：気象庁

◆ 水道管路の更新・耐震化の促進に貢献

クボタが開発した耐震型ダクタイル鉄管は、過去の巨大地震でも一切被害がなく、その有用性が確認されています。2016年には、従来の耐震管と同等の耐震性能を有しつつ、技術開発で低コスト・軽量化を実現した「NECS（ネクス）[®]」を市場投入。水道管路の更新率、耐震化率の向上に貢献していきます。



詳しくはこちら（クボタ耐震型ダクタイル鉄管 鎖構造管路の特長）

IoT活用で、水道管路工事・施工管理を効率的に

財政難や配管作業員の人手不足で管路更新率の低迷が問題となる中、工事と施工管理の一層の効率化が求められています。

クボタが提供している「KSIS」[※]の一つである「サイトイノベーション」は、簡易接合機による新しい施工技術と、IoTを活用した施工管理技術を融合させたシステムです。管接合状況のチェックが簡単に行えるほか、管接合結果をタブレットに入力するだけで施工管理用書類の作成が簡単に行えます。

※「KSIS」：クボタスマートインフラストラクチャシステムの略称
IoT技術を活用し、水環境分野の製品・プラント機器単体から、システム・アフターサービスまで含めたトータルソリューションサービスを提供するシステム

サイトイノベーション

